

世界の文房具の歴史

PEN 新聞

1-C
桜井 玲

日本のシャープペンシルの原点

日本で初めて作られたシャープペンシルは、シャープの創業者・早川徳次が一九一五年に発明した国産初の金属製シャープペンシルだ。ねじを回して芯をくり出す仕組みで、常時芯が尖っていることから「エバー・レディー・シャープ・ペンシル」と命名された。社名の由来となった。当時の日本では和服に合わない、冷たいなどの理由で不評だったが、海外



早川式繰出鉛筆

世界1高い文房具は
2億4500万円!!

世界一高い文房具は、万年筆のモンブラン・ハリー・ストーリー・万里の

長城・リミテッド・エディションだ。二億四千五百万円という規格外の値段となっている。この万年筆は世界に一本しかなく、ソリッドゴールド

のキャップにはサファイア・アルビートル・マリン・ダイカ・モントを使ったゴージャスな装飾が施され、すべてを手作業で製作した万年筆である。



宝石だらけ!!

世界の筆記具の歴史

編集後記

人類最初の筆記具は、記元前の草紙ペンだ。中世ヨーロッパでは羽ペンが主流となり、修道院や学者が用いた。約五百年前にはイギリスで初めて鉛筆が普及、十九世紀には万年筆が発明されて携帯性とインク供給が改善。二十世紀前半にはボールペンが生まれ、滑らかな筆記を実現し、戦後に世界的に広まった。



シャープペンの歴史には昔の人の知力力が詰まっています。日本でも改良が進み、高いスリットや、鋭い生みの製法が多く生まれました。ドイツのモンブラン、ロシアのペンなどの有名で世界に知られたるブランドが多く、筆記具の歴史は、知力を感じ、やっほーしゃーはすごいと強く思いました。